

## 『賢い人のように③』

'23/02/12

聖書箇所: エペソ人への手紙 5章 15-21節 (新約 p.379)



今日は、まず初めに、皆さんに質問させてください…。一体、どうすれば、私たちは本当の喜びや満足といったものを手にすることができるのでしょうか？一体、どのようにしたら、私たちは、毎日を、賛美や感謝で溢れたものにしていくことができると、皆さんはお考えでしょうか？

実に、多くの方々が…、いえ、恐らくはすべての人が、そういったことを願って求めているのではないのでしょうか？…だから、ある者は富に走り…、ある者は自分の夢を叶えようとし…、また、別のある者は地位や名誉を求めようとするのかも知れません…。

### 命題: 神から見て「賢い人のような歩み」とは、どのようなものでしょう？

しかし、私たちは、このエペソ書を通して学んできました…。私たちクリスチャンは、イエス様を救い主と信じた瞬間に変えられて、それまでとは全く正反対の性質を持つ者となったということ…。それ故に、神様によって変えられた私たちは、当然、その生き方や歩みも変えられるはずなのです。

2週間程前から私たちは、神様から見て、賢い人物とは、どのような人物であり…、また、どのような歩みをしていくのか、ということについて学んでおります。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 5:15-21 をお開きください。初めに、今日与えられた聖書のみことばをお読みいたします。

<エペソ 5:15-21>

- 15 そういわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、
- 16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。
- 17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。
- 18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。
- 19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。
- 20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。
- 21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。

### I・注意 深い歩み！(15-16節)

神様が喜んでくださり…、また、賢いと評価してくださる歩み…⇒まず第1に、このみことばが教えてくれていることは、「注意」深い…、慎重な歩みということでした。神様は、私たちが、いい加減な判断でもって…、適当に、また、それぞれ、好き勝手に生きていくことを、決して喜んではいけません…。

だから、聖書の多くの箇所には、イエス様を信じて救われたクリスチャンたちに対して、「こうありなさい！このように生きていきなさい！」ということが、何度も何度も、教えられてあるのです。しかも、多くの場合、それらは命令形で書かれています。つまり、そこには、ある意味において、私たちの自由と言うか…、選択の余地は無いのです！「この教えは、自分も納得するから従っても良い…。でも、この教えは、どうも好きになれないから、無視しても良い…。」という風に、神様からの教えを選び好みするようなことを、神様は決して喜んではいけません…。

このことは、今日の3つ目のポイントでも学んでいく予定ですが、真の神様は、私たちを愛し、私たちをより良い道に歩ませるために、そういった数々の命令を与えてくださいました…。何故なら、そこにこそ、私たちが願ってやまない…、本当の喜びや感謝…、また、神様からの祝福というものがあるからなのです…。私たちが救われるために、みことばに従っていくのではありません！神様が、救われた私たちに必要なこと

を、みことばによって与えてくださっているから、そのみことばに従っていこうとするのです。

### II・神のみこころ に沿った歩み！(17節)

そして、先週に学んだ、2番目のポイントは、常に、神様の「みこころ」に沿った歩みをしていく！ということでした…。私たちは、神様のみこころというものを常に意識して…、何が神様の前に正しいことで、どういったことを神様が喜んでくださることなのか、といったことをよく考え、それを実践していく必要があるのです！ローマ 12:2 のみことばは、こう教えてくれています。『2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一変によって自分を変えなさい。』⇒このように、私たちは、何が神様のみこころで、一体どういったようなことが神様に喜ばれるのか、あるいは、神様の前に価値あるのか、といったようなことをよくよく考えて…、そのために、自分のことを変えていかないといけないのです…。そのために、私たちは神のみことばを学び、それを実践していく必要があるのです。

先週学んだように…、神様は、ここにおられる皆さんお1人お1人に対しても、最善の御計画を御持ちです…。あなたには、せっかく、神様が用意してくださっている、最善の道が備えられているのです！しかし、そのような…、神様の用意してくださった、あなたに対する個人的なみこころを知っていくために必要なことは、①まず第1に、聖書が教えてくれている…、真唯一の神様を、自分の神…、私の救い主として信じ受け入れなければなりません。何故なら、この神様を信じるまで、あなたは神の敵として…、悪魔に従って歩んでしまっているからです。

そして…、先週と順番が違ってしまって申し訳ないのですが…、②次に必要なことは、神の前に、自分を聖く保って生きていく、ということでした。例え、どのような小さな罪であっても見逃されずに裁かれる聖い神様のみこころを知っていくためには、私たち自身も、その神にならって聖くあらなければならない…、というのは、至極当然なことですよ。

③3つ目に、神様に対して従順であるということでした。それは即ち、言い換えれば、みことばに対して従順である、ということです。何故なら、神様のみこころとは、まず、何よりも、(聖書を指して)この聖書だからです！この聖書にこそ、神様の御考えや私たちに對する数々の勧めや命令が記されてあります。この聖書の教えに対して従順でない者に、神様からの…、個人的なみこころは分かり得ません…。

④4つ目は、すべてのことを、ただ、神様の栄光のためになしていく、ということでした。自分自身の利益や何か別の目的のためなどではなく…、ただ、神様の素晴らしさが現わされることを1番の目的として、すべてのことをなしていく、という思いです！「今、自分の内に起こっている…、この願いが神様のみこころでなければ、私は喜んで、それを捨てることができるかどうか？また、例え、神様のみこころが辛く、大変ないばらの道であっても、喜んで、従っていこうとしているかどうか？」…そういったことを、私たちは、自分自身に問うことによって…、私たちは、自分自身の内にある思いを、ある程度は知ることができるのです…。

### III・聖霊に 満たされた 歩み！(18-21節)

そして、最後5番目…、それこそが、今日学ぶ3つ目のポイントでもある、聖霊に「満たされた」歩みということ…です…。どうぞ、もう1度、エペソ 5:18 だけをご覧ください。『また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。』⇒ここでも、明らかに、『御霊に満たされなさい！』ということが命令法で書かれています。しかも、このみことばの前には、その対象を絞るような条件などは一切書かれていません。…と言うことは、これは、すべてのクリスチャンたちに対して命じられてあることなのです…。

## ● 飲酒 に関する教え

しかし、このみことばを見ていく前に、まず、18 節前半の、『また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。…』という部分を見ていきたいと思えます。ここでは、『酒に酔ってははいけません…』とあるように、“飲酒”に関する教え…、特に、酔っ払ってしまうことに対する警告がなされています。確かに、聖書には、ここだけでなく…、ローマ 13:13、I コリント 5:11、ガラテヤ 5:21、I ペテロ 4:3 などで、お酒を飲むこと全てではありませんが…、お酒を飲んで、酔っ払ってしまうようなことを禁じています。例えば、旧約聖書でも、箴言 20:1 では、『ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。』とあって、お酒に関する警告が、何度かなされています。

理由は、もう(既に)、クリスチャンでない方もよくご存知です。…と言うのは、私たち人間は、お酒を飲み過ぎて、失敗をしてしまうような「弱い生き物」だからです。なかでも、飲酒運転などは、その最たるものですね…。先程も言ったように、みことばは、私たちを束縛して、苦しめるために記されたものではありません！みことばは、私たちのために、様々な教えや注意点を与えてくれているのです。

ですから、ここ 18 節でも、『そこには放蕩があるからです。…』とあって、お酒を飲み過ぎると、自制心を失ってしまっ、そのために身を持ちくずしたり、様々な罪に陥ったりするようなことを警告しています。ここで、『放蕩』と訳されている言葉(ἀσώτως)は、「放蕩、乱行(らんぎょう)」というような意味なのですが、単語の元々の意味は、「救われ難い…」という意味で、「もう、どうしようもない…」というようなイメージの言葉が使われています。

実は、この当時、この手紙が書き送られた小アジアの地方はぶどうの産地で、そのぶどうから作られたお酒によって、この辺りの地域が潤っていたそうです…。そういったこともあって、この地方では、日本語で「バックス(あるいは、バックス)」と呼ばれる、お酒の神様が祭られておりました。この神様は、ギリシャ神話でも、ローマ神話でも出てくるらしいのですが…、「闘志と狂乱」を特徴とし、「青春と情熱」の象徴として考えられていたそうです。この当時の小アジアの人たちは、そんな神様を礼拝しようとして…、所謂、乱痴気騒ぎと言うか…、お酒を飲んで酔っ払い…、そして、性的な不道徳に陥り…、不品行に走りながら、バカ騒ぎをしていたようなのです。だから、みことばは、そういったような誘惑を伴うところから、「離れなさい！」と命じているのです。何故なら、そこには、一時的な快楽はあったとしても…、そこに、本当の祝福や価値あるものは無いからです。

## ● 『御霊に 満たされなさい』とは？

じゃあ、次に考えたいことは、『御霊に満たされなさい…』という命令が、具体的にどういったことを指しているのか、ということです。恐らくは、多くのクリスチャンが、このことを何となくは分かっているけれども…、具体的には説明できないというのが、正直なところではないでしょうか？

改めて言うまでもないでしょうが…、ここで言われている『御霊』とは、聖霊なる神様のことです。その、聖霊なる神様に満たされるとは、一体、どういうことでしょうか？⇒…ここで、『満たされなさい』と訳されている言葉(πληρώω)は、「いっぱいにする、充填する、欠けている部分や空いている部分を埋める、完全に実行する、成就する…」といった意味の言葉が使われています。

もう1つのヒントは、ここ 18 節では、「御霊に満たされる」ということが、「お酒に酔う」とこと対比されてある、ということです。これまで私たちが見てきましたように…、この一連の箇所に対比されているということは…、それらが全く逆のことではあっても、それらに何らかの共通点があるからでしてしょ？

例えば、エペソ 4:25 以降、①偽りと真実というのは、全く正反対のことですが、それらは両方とも言葉に関することでした…。②その次に見たのは、怒りと赦し…、感情に関することでした。③そして、その次は盗みと施し…、お金や物質に関すること。…そのように、対比されているもの同士には、それぞれの共通点があったのです。そうでしたしょ？

じゃあ、皆さん。次に、こんな疑問が出てきませんか？お酒を飲んで酔っ払うことと…、御霊に満たされることの共通点って、一体、何なのでしょう？⇒実は、御霊に満たされること、お酒に酔っ払っていることが、同時に出てきている聖書箇所がありましたので、そちらをご覧くださいませ？使徒 2:1-15、『1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。2 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。3 また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。4 すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。7 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。8 それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くと、いったいどうしたことでしょう。9 私たちは、パルテヤ人、メジャ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジア、10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」12 人々はみな、驚き感って、互いに「いったいこれはどうしたことか」と言った。13 しかし、ほか「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ」と言ってあざける者たちもいた。14 そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきりとこう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。15 今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているではありません。」と、ペテロの弁明が続いていきます。

お酒に酔うことと…、御霊に満たされることの共通点って、一体、何なのでしょう？⇒それは、「その人の思いが、どういったものによって影響されるのか？」ということです。…お酒を飲んで酔っ払ってしまうと別の人格になってしまうとか、あるいは、記憶が無くなってしまう…というような話を、皆さんも聞くことがあると思います。確かに、そうやって、自分のしたことをお酒のせいにしてしまうことは正しくありませんが…、しかし、実際問題として、酒に酔って、気が大きくなったり、あるいは、自制心を失ったりすることがあるというのは、どうも事実のようです…。

それと、御霊に満たされるというのも、同じようなことなのです！違うのは…、その影響を受けるものが、お酒に酔った自分自身という罪の性質によるものか…、あるいは、御霊なる神様という善の性質によるものか、ということなのです！

今先程、読んだ聖書箇所では、御霊に満たされた者たちが、御霊の導きに従って、外国語を話したという記事が書かれておりました。もちろん、これは、ペンテコステという特別な出来事で、今の私たちにも同じようなことが起こり得るかと言うと、それは有り得ないことですが…、しかし、御霊に満たされた者たちは、この時、周りの者たちが、『驚きあきれ』るほど…、大胆に、神様に従って、その神様のことを証したのです。

それと、どうぞ、今度は、使徒 6:5 をご覧ください。『この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ…』とあります。このステパノが、御霊に満たされて、大胆に神の代弁者となって、大祭司を始めとするユダヤ人たちのことを責めたことがありました。それが、7 章の記事です。そこに

は、このように記されてあります。使徒 7:54-60、『54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって齒ぎりした。55 しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、56 こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子(つまり、イエス・キリスト)が神の右に立っておられるのが見えます。」57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。58 そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロ(=後のパウロ)という青年の足もとに置いた。59 こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」60 そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。』⇒このように、御霊に満たされていたステパノには、神様以外には、ほとんど何も目に映っていないからです…。ステパノの目の前には、今にも自分を殺そうとする者たちで溢れていたのに…。です！

皆さん、気付いてくださいましたか？…この時、ステパノが叫んだ、『主イエスよ。私の霊をお受けください』という言葉は、イエス様が、あの十字架上で叫ばれた、最後のお言葉である、『父よ。わが霊を御手にゆだねます。』(ルカ 23:46)と、よく似てませんか？…また、ステパノが最期に叫んだ、『主よ。この罪を彼らに負わせないでください』という言葉も、イエス様が、あの十字架上で祈られた、『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ 23:34)という祈りと、そっくりじゃないですか！

このように…。聖霊に満たされるとは、私たちの人格が聖霊によって支配されることを言います。ただ単に、お酒を飲むだけでなく…。酔っ払うほどにまでなってしまうと、私たちの人格だけでなく…。知性や感情…。その選択や行動にまでアルコールが大きな影響を及ぼされてしまうように…。聖霊に満たされるというのは、私たちの人格や知性、感情や行動などのすべてが聖霊によって大きく影響されるような状態のことを言うのです…。

だから、パウロなどは、例えば、ピリピ 4:13 でも、『私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。』と証ししています！パウロを強くしてくださったのは、真唯一の全能なる神様であって…。その同じ神様が、私や皆さんのことだって、パウロと同じように強くしてくださるのです！

また、パウロは、ガラテヤ 2:20 で、このように教えてくれています。『私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。』⇒このみことばが教えてくれるように、イエス様を信じて、クリスチャンとなった皆さんは、もう既に、イエス様と一体とされているのです。だから、I コリント 6:19 でも、『あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。』ということが教えられてあります。このように、聖霊なる神様が、私や皆さんの内に住んでくださっているが故に…。皆さんは、お1人お1人が神の宮とされているのです！

実は、今日のみことばの、18 節に記されてある、『御霊に満たされなさい。』という命令は、現在命令法の受動態で書かれています。…ということは、ここでみことばが教えてくれていることは、神様が私たちに満たして下さる、ということなのですが、しかし、当然、命令形でこういったことが教えられているということは、そこに、私や皆さんの責任があるということが教えられているのです。神様は、私たちを導こうとしてくださっているのです！しかし、神様が実際にそうして下さるかどうかは、実は、私たちに懸かっているのです…。

あとは、私や皆さんが、私たちの内に住んでくださっている神様に、どれほど、自分のことを沿わせていけるか…。です。前回学んだように、皆さんが、神様のみこころを求めて、どの程度、その神様のみこころに従っていけるか、ということです…。実に、そういったことこそが、神様にすべてをお委ねすることであり…。その時に、御霊は皆さんのことを満たしていただくのです。

## ● 聖霊に満たされた 結果、出てくるもの…

ただ…。ここで注意したいのは、お酒の場合と違って、私たちが聖霊なる神様に満たされたからと言って…。私たちが全く別の人格になってしまったり…。あるいは、自分のしたことを覚えていないようになってたりするわけではありません。聖書の中に、幾つもの聖霊に満たされた実例がありますが、聖霊に満たされたからと言って、自分のしたことを覚えていないなどということは、一切書かれていません。それどころか、実は、今日のみことばには、聖霊に満たされた“結果”、生じることが教えられてあります…。日本語訳聖書の19-21 節のみことばを見てみますと、幾つかのことが命令されてあるように見えますが、実は、原語のギリシヤ語では、命令形は 18 節までで、19-21 節の間には、1つの命令もありません。その代わりに、5つの現在分詞があって、それらは皆、御霊に満たされた結果を表わしてくれているのです…。

エペソ 5:19-21 には、こうあります。『19 詩と賛美と霊の歌をもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。』

### ① 神への賛美 (19 節)

ここでは、大きく分けて、3つのことが教えられてあります。その1番目は、“神への賛美”です…。19 節をご覧いただきますと、『詩と賛美と霊の歌…』とありますが、この『詩』(ψαλλμός)とは詩篇のことです。2000 年前のこの当時は、礼拝の中で詩篇のみことばが楽器の伴奏に合わせて朗読され、神様がほめたたえられていたのです。その次の、『賛美』(ὑμνος)とは、英語で「賛美歌」という意味の、Hymn の語源ともなった言葉です。最後の、『霊の歌』とは、もう少し広い意味での賛美歌を指すと思われます。今で言うところの、ゴスペルソングに近いと考えられます。

ここ 19 節に、『詩と賛美と霊の歌をもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。』とありますが、先程言いました、御霊に満たされた結果を表わす5つの現在分詞の内、3つがここ 19 節にあって…。それが、『語り、…歌い、…賛美しなさい』という言葉です。恐らく、これらは、1つ1つに大きな意味の違いがあるのではなく、ある種の強調であろうと思われます。しかし、ここでは、『互いに語り…』ともあることから、ただ単に、音楽の上での賛美だけを意味するのではなく、証しなどを含む、すべての神様に対する誉れや礼拝を指していると私は考えます。

私たちが、御霊に満たされた時…。こういったような賛美、あるいは、神様に対する礼拝が自然と湧き上がってきます。それはどうしてでしょうか？⇒ヘブル 13:15 に、こうあります。『ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。』…このように、賛美とは、神が喜んでくださる、立派な捧げ物なのです。神様が、すべてのものを神様の栄光のために御造りになられたように…。私たちが神様をほめたたえることは、何よりも、主に喜ばれることだからです。そういったことを、御霊なる神は、私たちを通してなしてくれるのです。

ヤコブ書 3 章で教えられてある通り、私たちに与えられた…。この口は、本来、神様が喜んでくださることを話し…。神様を賛美するために与えられたものです。しかし、現実には、私たちは、その口をもって…。神様に愚痴をこぼしたり、他人の悪口を言ったり、あるいは、人を呪ったりもします。もしも、そういったことが起こってしまうなら…。それは、その人が御霊に満たされていないところにも、原因があるのではないのでしょうか…。

## ② 神への感謝 (20 節)

私たちが御霊に満たされた時に起こること…、その2番目は、“神への感謝”です。今日のみことばの 20 節に、『いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。』と書かれてある通りです。皆さん、思い出していただけますか？…この「エペソ人への手紙」を書いた時、パウロは、ローマで投獄されていたのです！そのパウロが、こう教えてくれるのです！「もしも、あなたが聖霊に満たされるなら、そこにこそ、感謝が生まれてくる」って…。環境が良ければ、そこから、感謝が湧き上がってくる、とはパウロ教えないのです！

しかし、多くの人は思います、「牢獄から解放されて…、自由になったら感謝します！」って…。正直言っても、問題の中に居ながらにして、神様に感謝するのは容易いことではありません…。私たちは、ある程度の富が無いとすぐ不安になります…。健康で無いと、人を羨んだりするかも知れません…。何か問題があると、つい、お酒やギャンブルや、何か別のことに没頭したりして、現実を忘れようとしてしまいがちです…。人が自分よりも地位や名誉を持っていると、その人をねたんだりもします…。それが、残念ながら、罪を持って生まれた私たちの本来の姿かも知れません…。

しかし、神様は約束してくださるのです！「もしも、あなたが御霊に満たされるなら、あなたには感謝が与えられる！」って…。皆さん、思い出していただけますか？ガラテヤ 5:22-23 に何とあります？『22 (しかし、)御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。…』皆さん、分かってくださいませ？…未信者を含む、多くの人たちが願ってやまない…、本当の喜びや平安…、また、感謝といったものは、このように、神様から与えられるものなのです！

本当の神様をご存知ない…、ノンクリスチャンの方が、神様以外のところに、本当の満足を求めるのは分かります。しかし、私たちクリスチャンは、本当の満足や感謝が、神様から与えられることを知っています。もう少し言えば、私たちが聖霊に満たされた時…、神様が本当の愛、喜び、平安などの様々な満足や充実感を与えてくださるのです！何故なら…、そのように、御霊に満たされた状態こそが、神様によって造られた私たち人間にとって、最高の状況だからです！ひょっとしたら…、私たちは喜びや平安、感謝などを得るために…、神様以外の…、別のところへと走ってしまっていないでしょうか？「山上の説教」の冒頭部分でも学んだように、本当の幸せというものは、皆さんと神様との…、正しい関係から来るのではないのでしょうか？

皆さんも、そういったような経験がありませんか？…例えば、感謝がない時というのは、自分が御霊に満たされていない…、言い換えれば、どこか、神様との関係がギクシャクしてしまっている…。何か、神様の前にやましいことがある…。神様を十分信頼しきれていないなど、どこかしら問題があるのかも知れません。…その逆に、多くの問題や困難…、あるいは、厳しい環境の中にあっても、感謝できるとか、平安がある、希望がある、心から神様を賛美できる…というような時は、私たちと神様との関係がしっかりしている時ではないのでしょうか？…そういったことを通しても、私たちクリスチャンが1番に優先すべきことは、何よりもまず、神様との関係であるということが分かるのです…。

## ③ 従順 (21 節)

私たちが御霊に満たされた時に起こること…、その最後3番目は、“従順”です。しかも、今日のみことばの 21 節には、『キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。』とあるように、それは、特に、主にある兄弟姉妹に対するものです…。ここで、「従う」と訳された言葉(ὑποτάσσω)は、元々は軍隊用語で、「自分を下に置く、服従する…」という意味の言葉が使われています。軍隊での主従関係って、その位が1つでも違っていたりすると、絶対に、逆らえないですよね？

ですから、御霊に満たされたクリスチャン…、言い換えれば、より成熟したクリスチャンというのは、本来、ますます、謙遜になっていくはずです…。恐らく、パウロは、この直後の…、エペソ 5:22 以降のみことばを語っていくにあたって、1番大事な謙遜とか…、あるいは、従順といったことを、ここで読者に思い起こさせようとしてくれているのだと、私は考えています。

<励ましの言葉>

さて、私たち人間の、生まれながらの性質は、罪のゆえに、如何にして他人よりも優位に立とうか…、少しでも自分を良く見せようとか…、あるいは、自分が人に仕えるのではなく…、人が自分に仕えてくれることを期待してしまいます…。だから、私たちは、自分の思い通りに人が動いてくれないことで、すぐに腹を立ててしまったりするのです。しかし、私たちが御霊に満たされていく時に、そういったことで腹を立てることがどんどん少なくなっていくのです。

今日のみことばで、『御霊に満たされなさい。』とありましたが、この命令は、現在命令法であるとお話ししました。…それは、つまり、「そういったことを継続していきなさい！」ということなのです。御霊に満たされるということは、今日、それができていたとしても、明日や明後日のことは分かりません。もし…、私たちが、神様を意識することを忘れてしまったり、あるいは、誘惑に負けてしまったりすることで、いえ、そこまでいかなくても、私たちの思いが 100%神様に沿っていないと、起こり得ない状態なのです。

ですから、私たちは常に、自分の意識を集中して、神様を愛し…、神様のみこころに自分を沿わせていく時…、御霊に満たされて、生きていくことができるのです。そうする時、そこには、神様の与えてくださる祝福である、感謝や賛美が湧き上がってくるのです。どうぞ、私たちが、1日でも…、一瞬でも長く…、御霊に満たされていくことができるように、お祈りいたしましょう。